

修士論文（要旨）

2014年1月

インドにおける妊産婦死亡率低下に向けた取り組み
—その現状と諸課題—

指導 鷹木 恵子 教授

桜美林大学大学院

国際学研究科

国際協力専攻

学籍番号 211J1053

齊藤 美菜子

目 次

第1章	はじめに	1
第1節	問題の所在と本論文の目的	1
第2節	先行研究と本論文の位置づけ	3
第3節	本論文の構成	4
第2章	インド政府による保健政策と女性	6
第1節	独立以降の女性に関する保健医療政策の歴史的変遷	6
第2節	保健医療政策の評価と目標数値の再設定	7
第3節	国家農村保健計画(NRHM)の概要と成果	9
1.	国家農村保健計画(NRHM)の概要と中間報告	9
2.	国家農村保健計画(NRHM)の総括と成果	11
第3章	NGOの妊産婦健康プログラムとその活動	13
第1節	全国NGOのSEWAのプログラムとその活動	13
1.	SEWAの組織とその活動内容	13
2.	SEWAの妊産婦保護プログラムの特徴とその現状	15
第2節	ローカルNGOのSNEHAのプログラムとその活動	17
1.	SNEHAの組織とその活動内容	17
2.	SNEHAの妊産婦の健康プログラムの特徴とその現状	19
2-1.	妊産婦と新生児の健康プログラムの特徴とその現状	19
2-2.	リプロダクティブ・ヘルス・プログラムの特徴とその現状	20
第4章	妊産婦死亡率低下に向けた諸課題	22
第1節	インド政府の取り組みに見る諸課題	22
第2節	NGOの取り組みに見る諸課題	25
1.	SEWAの取り組みに見る諸課題	25
2.	SNEHAの取り組みに見る諸課題	27
第5章	おわりに—今後に向けての提言—	29

参考文献

要 旨

世界中で、日々、多くの妊産婦が命を落としている。1日に800人以上、年間28万7,000人にも及ぶ女性たちが妊娠や出産が原因で死亡しているとされ、死亡の原因の多くは予防可能な病気である。また、適切な産前ケアや緊急時の産科ケアを受けられていないこと、安全でない人工中絶や分娩などによっても、死亡や合併症へつながっているケースが多い¹。妊産婦の健康は、命に直結した問題であり、ミレニアム開発目標²においても「妊産婦の健康の改善」という目標が定められるなど、開発の分野において重要な優先課題として位置付けられてきた。

本論文の目的は、世界中で実施されている妊産婦死亡率低下に向けた取り組みについて、特にインドを対象として、その現状と課題について、検討するものである。筆者は、大学の学部時代に国際協力を専攻して以来、インドの女性に関わる問題に関心を持ち研究してきた。特に、インドは、妊産婦の死亡者数が世界で最も多い国と言われている。インドにおける妊産婦死亡率³は2010年の時点で200とされている。このインドの数値は、世界平均数値の145と比較すると、きわめて高いものである。また、サハラ以南のアフリカ諸国の中には、インドの数値をはるかに超える500以上の数値をもつ国々も存在しているが[国連開発計画(UNDP) 2012:179-181]、2005年のユニセフの報告によると、この年の妊産婦死亡数のみで見ると、インドが最多の11万7000人であり、続いてナイジェリアで5万9,000人、コンゴ民主共和国で3万2,000人となっている⁴。インドは、世界第2位の人口を抱えていることから、妊産婦の死亡者数も実際に多くなっていることがわかる。

この問題について考察するにあたって、本論文の章立ては、全5章から構成される。まず、第1章においては、問題の所在を明らかにし、先行研究と比較して本論文の位置づけを明確にする。

第2章は「インド政府による保健政策と女性」と題し、第1節では、独立以降のインド政府による保健医療政策のなかでも、特に女性に関する取り組みの変遷について述べる。第2節では、インド政府の第12次開発計画の計画書の内容を取り上げ、保健医療政策の評価と目標数値の再設定について述べる。第3節では、インド政府が妊産婦死亡率低下のために実施した、国家農村保健計画について、その活動の概要と成果を明らかにする。

続いて、第3章は「NGOの妊産婦健康プログラムとその活動」と題し、この章では2つのNGOの活動事例を取り上げる。第1節では、インド全国にその活動を広げている自営女性労働者協会(Self-Employed Women's Association: 以下SEWAと記す)について焦点を当て、その活動を紹介する。SEWAは、インドを代表する実績と経験をもつNGOで、インドの様々な地域で女性の労働や健康に関する活動を行っている。第2節では、同じくNGOでも、ローカルNGOのSociety for Nutrition, Education & Health Action(以下SNEHAと記す)の事例を取り上げる。SNEHAは、SEWAとは反対に、ムンバイという都市を中心として妊産婦の健康促進を目的に活動しているNGO

¹ 国連人口基金東京事務所 HP (2013,11.10 閲覧)

² ミレニアム開発目標は、2000年に開催されたミレニアム・サミットで採択された、ミレニアム宣言を基にまとめられたものである。ミレニアム開発目標のなかでは、貧困の撲滅や、教育の普及など、8つの重大な国際的課題に対して、2015年までに達成するという期限付きの目標が定められている。

³ 出生10万人当たり何人死亡しているかの割合。

⁴ 日本ユニセフ協会 プレス・リリース HP (2013,11.10 閲覧)

である。SNEHA は、妊産婦の健康について、特に焦点を当てて活動しており、SEWA とは、その点で特徴を異にしている。これら 2 つの NGO・すなわち全国 NGO とローカル NGO、それぞれ異なる規模の NGO の活動を比較・考察することで、それぞれの特徴や長所、また限界などについても明らかにする。

また、第 4 章では、第 2 章、第 3 章の内容を受けて、そこから明らかになる政府レベル・NGO レベルのそれぞれの課題などについて考察する。

第 5 章「おわりに」では、本論文の以上の内容をまとめ、インドの妊産婦死亡の現状と課題を踏まえて、今後に向けてのいくつかの提言を述べる。

参考文献

【邦文】

アラヴァムダン、ギター

2012 『インド 姿を消す娘たちを探して』 柘植書房新社

喜多村百合

2000 『糾われる開発—インド・グジャラートの女性組織運動とエージェンシー』

文部省科学研究費・特定領域研究(A)「南アジアの構造変動とネットワーク」

2004 『インドの発展とジェンダー:女性 NGO による開発のパラダイム転換』 新曜社

国際協力機構インド事務所

2010 『インド・マディヤプラデシュ州リプロダクティブヘルスプロジェクト(フェーズⅡ)終了時評価調査報告書』

国連開発計画(UNDP)編

2013 『人間開発報告書 2013 南の台頭——多様な世界における人間開発』

阪急コミュニケーションズ

斉藤千宏

1997 『NGO 大国インド 悠久の国のネットワーク』 明石書店

セン、マラ

2004 『インドの女性問題とジェンダー—サティ(寡婦殉死)・ダウリー問題・女兒問題』 明石書店

鳥居千代香

1996 『インド女性学入門』 新水社

【欧文】

Ministry of Health & Family Welfare, Government of India

2010-a *Five Years of NRHM 2005-2010*

2010-b *NATIONAL RURAL HEALTH MISSION. MEETING PEOPLE'S HEALTH NEEDS IN PARTNERSHIP WITH STATES. THE JOURNEY SO FAR 2005-2010*

Office of Registrar General, India

2011 *Maternal & Child Mortality and Total Fertility Rates Sample Registration System (SRS)*

Self-Employed Women's Association

2008 *Annual Report 2008*

Society for Nutrition, Education & Health Action

2013-a *2011-2012 in review*

2013-b *SNEHA Adolescent Impact Aug 2013*